

漢方医学に関する看護師の生涯教育の検討

竹森 志穂¹⁾, 江口 優子¹⁾, 吉田 千文²⁾, 山田 雅子²⁾

抄 録

目的: 本研究では、漢方医学をめぐる看護実践の実態と漢方医学を学ぶ意義、看護師の漢方医学の学び方について、漢方医学に興味のある看護師の語りから質的に記述することを目的とした。

方法: インタビューによる質的記述の研究である。漢方医学に関する研修会の参加者で、研究協力の同意の得られた看護師にインタビューを実施した。倫理的配慮として、研究への協力は自由意思に基づくものであり、研究のどの段階でも協力を撤回することが可能であることを保証した。

結果: 研究協力者は5人で、2人ずつのグループ・インタビューを2回、個人インタビューを1回行った。漢方医学をめぐる看護実践の実態として【看護師は漢方医学の正確な知識がない状況で看護を行っている】【看護師は漢方医学について誤解をしている】など4つのカテゴリーが抽出された。また、看護師が漢方医学を学ぶ意義として、【漢方医学の考え方や漢方薬の作用を理解することができる】【看護師の対象をとらえる力が強化される】【看護師のケア力を向上させる】【看護師の役割を再認識する機会となる】という4つのカテゴリーが抽出された。

看護師の漢方医学の学び方として、【学習したことを実践と結びつけて理解している】【漢方薬の効果を自分や周囲の人の体験から学んでいる】という経験や【漢方医学の基礎を学びたい】【漢方薬の作用・効用を学びたい】【日常に有用な漢方薬の種類を学びたい】【漢方医学の診察・診断方法を学びたい】という今後の学習内容の希望が挙げられ、【参加型の学習方法がよい】【漢方医学に関する知識レベルに合わせた研修内容がよい】という期待が語られた。

結論: 看護師が生涯教育として漢方医学について学ぶことによって、看護の本質を再確認し、患者の背景や生活を見る視点が強化できる可能性が示された。看護師が漢方医学の基礎を、体験を交えて学ぶことができるようなプログラム開発の必要性が示唆された。

キーワード: 漢方医学, 看護師, 生涯教育, 質的研究

I. はじめに

現在の日本の看護職にとって、漢方薬は身近なものであり、実際に漢方薬を服用している患者にかかわる機会も多い。実際に医療現場では、89%の医師が漢方薬を処方しており、年々増加してきている（日本漢方生薬製剤協会, 2011）状況である。しかし、看護学生を対象とした漢方医学に関する基礎教育を実施している養成校は少なく（高橋ら, 2007; 中野ら, 2013）、看護職への生涯教育でもほとんど取り上げられていない状況である。こうしたなかで看護職は、漢方薬を服用したり漢方医のもとで療養している人々に対する看護に困難を感じていることが推察されるが、看護実践の実態や学習ニーズについ

て明らかにした調査はほとんどない。

日本における漢方医学は、6世紀ごろに中国から伝わった中国医学を起源として、日本文化のなかで独自に発展してきたものである（小曾戸, 2006; 山田, 2008; Hottenbacher et al, 2013）。漢方医学では、対象を全体的・統合的にとらえること、五感を使って診断すること、自然治癒力を働かせることなどの考え方が根底にあり（山田, 2008; Hottenbacher et al, 2013）、自覚症状を中心として体系化されていることも特徴である（佐藤, 2011）。一方看護は、治療・診療の補助という方法に加えて、人間が本来もっている自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、生活全般に配慮し、身体的・精神的・社会的に支援することを目指している（小池ら, 1992; 日本看護協会における看護職に関する呼称等の定義プロジェクト, 2007）。このように、漢方医学の健康、人間、そして医療者のアプローチに対する考え方は看護の考え方と重

受付日: 2015年5月31日 受理日: 2015年12月14日

1) 聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程

2) 聖路加国際大学看護学部

なる点が多く（寺澤，2009；中野ら，2011；中野ら，2013），看護職が漢方医学を学ぶことで，診療の補助に必要な知識獲得とは異なる，看護職独自の生活の援助に関する新たな視点が得られるのではないかと考えた。

しかし，実際に漢方医学の学習を通して，看護職がどのような学びを得るのか，また看護実践にどのように活用され得るのか，そして看護職は漢方医学をどのように学びたいと考えているのか，という点について，看護職の立場から明らかにした報告は少ない，現在セミナーなどで行われている看護職に対する漢方医学に関する教育内容は，漢方医学の考え方，診断の仕方，漢方薬の種類と効果など医学的視点に基づくものがほとんどであり，看護援助と関連させて学ぶ機会はほとんどない状況がわかった。

そこで本研究の目的は，漢方医学をめぐる看護実践の実態，看護師が漢方医学を学ぶ意義，看護師の漢方医学の学び方・学びたい内容・効果的な研修方法について，看護師の語りから質的に記述することとした。この記述を通して，看護師への漢方医学に関する新しい生涯教育プログラムの開発につなげることができると考える。

なお，本研究で用いる「漢方医学」とは，中国から伝わった中医学が日本の文化のなかで独自の発展を遂げてきた医学を指す。

II. 研究方法

本研究は，グループ・インタビューおよび個人インタビューによる質的記述的研究である。

1. 研究協力者

漢方医学に関する研修会（全4回）に2回以上参加した看護職で，研究協力を同意したものとした。

2. データ収集方法

都内看護系大学における看護師の生涯教育プログラムの一環として，2014年10～12月に開催された漢方医学に関する研修会において，研究協力者のリクルートを行った。研修会は全4回のシリーズで，各回の「テーマ/内容」は，第1回は「葛根湯の基礎知識/漢方薬の効果・副作用等について」，第2回は「便秘と漢方/便秘の要因や漢方薬の効果等について」，第3回目は「漢方的フィジカルアセスメント/漢方医学の診断方法等（演習含む）について」，第4回目は「がん・認知症患者と漢方/がん治療の副作用への漢方薬の効果等について」であった。

研修会の参加者の募集は大学ホームページ等を通じて実施し，各回35～40人の参加者を得た。研究協力者のリクルートは，研修会各回の開始前に，グループ・インタビューへの参加依頼書と参加意向書を研修会参加者全員に配布し，研究の説明と協力の依頼を行い，参加を希望する場合は研修会終了時に参加意向書を提出してもらっ

た。それに基づいて全日程終了後に研究者から連絡をとり，内諾を得たうえで日程調整を行った。

インタビューは，研修会会場のある建物の一室で，研究者3～4人で実施した。主なインタビュアーは1人とし，同席した他の研究者は協力者の語りを妨げないように配慮することを基本とし，適宜内容を深めるような質問を追加した。内容は，①研修会に参加し学んだこと，②看護師が漢方医学を学ぶ意義について，③これまでの学習経験と今後学びたい漢方医学の内容および教育方法について，自由に語ってもらい，研究協力者の了解を得て，ICレコーダーに録音した。

倫理的配慮として，研究への協力は自由意思に基づくものであり，参加しなくても不利益を被らないこと，研究のどの段階でも協力を撤回することが可能であることを保証した。またインタビュー時の研究協力者の呼び名には本名を使用せず，個人名や施設名をださないように参加者に説明のうえ実施し，研究結果を学会・学術雑誌等で報告する際にも個人を特定できないようにすることとした。また，研修会主催者と講師に調査実施の承諾を得た。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号14-066）を得て実施した。また，企業からの奨学寄附金によって実施することについて，聖路加国際大学利益相反審査委員会に申告し，企業と研究者との間に利害関係がないことの承認を受けた。

3. 分析方法

インタビューの録音を逐語録に起こし，記述資料とした。記述資料を熟読し，研究目的である①漢方医学をめぐる看護実践の実態，②看護師が漢方医学を学ぶ意義，③看護師の漢方医学の学び方・学びたい内容・効果的な研修方法の3点に関連する記述を抽出し，その意味内容を損なわないようにコード化した。類似する意味のコードを集めカテゴリー化し，共通する意味内容をカテゴリー名とした。分析の過程では，共同研究者と共にコード化，カテゴリー化の適当性を検討し真実性の確保に努めた。

III. 結 果

1. 研究協力者とインタビューの概要

研究協力者は5人（女性4人，男性1人）で，看護師経験年数は6～15年が2人，16年以上が3人であった。2015年2月に，グループ・インタビュー2回および個人インタビュー1回を実施した。研究協力者は1回目，2回目は2人ずつ，3回目は1人の参加であった。2人の参加であった回は，協力者同士が自由に語り，また意見交換ができるように配慮した。1，2回目は約90分間，3回目は約60分間のインタビューを実施し，全インタビュー時間は約240分間であった。

表1 漢方医学をめぐる看護実践の実態

カテゴリー	サブカテゴリー
看護師や看護学生は漢方医学にあまり関心がない	看護師は漢方医学にあまり関心がない 学生の中には漢方医学への関心をもちにくい
看護師は漢方医学の正確な知識がない状況で看護を行っている	漢方医学がどのようなものか知らない 医師も漢方薬の正確な知識がないまま処方しているように感じる 看護師は漢方医学についてわからなくてもそのままにしている状況がある 漢方薬の処方の意図や効果がわからない 看護師は漢方薬の効果や飲み方の工夫を知らない
看護師は漢方医学について誤解をしている	漢方医学を怪しいものと思っている
看護師はきっかけがあれば漢方医学に関心をもつ	看護実践に関連した漢方薬の知識に関心をもつ 看護師は漢方医学を含めて患者へのケアに生かせることに関心をもつ

2. 漢方医学をめぐる看護実践の実態

漢方医学をめぐる看護実践の実態として、4のカテゴリー、10のサブカテゴリーが抽出された(表1)。以下、カテゴリー名を【 】、サブカテゴリー名を《 》で示す。「 」は研究協力者の語りで、そのなかの()は補足した内容である。

1) 【看護師や看護学生は漢方医学にあまり関心がない】

研究協力者の周囲で、《看護師は漢方医学にあまり関心がない》状況があることや、看護学生のときには国家試験にでる内容が優先され、また漢方薬の説明を読んでも患者の状態と結びつけにくいなど《学生の中には漢方医学への関心をもちにくい》ことなどが語られた。

2) 【看護師は漢方医学の正確な知識がない状況で看護を行っている】

看護師は、漢方という言葉がさまざまな使われ方をしていることは知っていても、どのような違いがあるのかはわからないなど《漢方医学がどのようなものか知らない》ことが語られた。また、現場で漢方薬がワンパターンに処方されていたり、効果の有無を見極めて処方の変更や終了がされていないのではないかと感じており、《医師も漢方薬の正確な知識がないまま処方しているように感じる》状況があった。一方、《看護師は漢方医学についてわからなくてもそのままにしている状況がある》ことも挙げられ、看護師が患者に薬の説明をできていない状況も語られた。

「漢方薬を渡すとき、(作用などが)わからなくても、まあいいかで済ませていた」「食前に飲んでくださいね、みたいになっちゃう」「他の薬の説明はできても漢方だけは(できない)」

また、漢方薬が処方されていても、《漢方薬の処方の意図や効果がわからない》状況や《看護師は漢方薬の効果や飲み方の工夫を知らない》ことが語られた。

「漢方薬が処方されていても特定のものが処方されていて、それが本当に効いているか効いていないのか、先生がわかっているか処方しているのかしていない

のかが、いまいち掴みきれていない」。

3) 【看護師は漢方医学について誤解をしている】

研究協力者の周囲の看護師が《漢方医学を怪しいものと思っている》状況があることが語られた。

「漢方は怪しいだの、長く飲まないとか効かないとか、値段が高いとか、生産方法がよくわからないけど、でもよく効くらしいとか、そういう嫌なイメージもある」

4) 【看護師はきっかけがあれば漢方医学に関心をもつ】

看護師は、漢方薬に即効性があること、急性期や慢性期など病期にあった漢方薬でないとか効果がでないことなど《看護実践に関連した漢方薬の知識に関心をもつ》ことが語られた。また、看護師は日ごろから患者の症状を和らげるようなケアに関心をもっていることや、患者へのアドバイスに活用できる知識を好むなど《看護師は漢方医学を含めて患者へのケアに生かせることに関心をもつ》ことが語られた。

3. 看護師が漢方医学を学ぶ意義

漢方医学を学ぶ意義として、4のカテゴリーと7のサブカテゴリーが抽出された(表2)。

1) 【漢方医学の考え方や漢方薬の作用を理解することができる】

漢方医学を学ぶことにより、患者本人は調子が悪いと感じていても、検査の値では正常範囲内であったり病気という診断がつかなかったりするような状態や、便秘を改善したら発熱も治まるなどの状況に対しても、《漢方医学の考え方で身体の症状・状態を理解できる》ことが語られていた。

「たとえば健診の結果でオール A だったとしても、どこか不調があるみたいなケースというのはありますよね。風邪引きやすいのもそうだし、頭痛いとかも。じゃあなにかしらの原因がそこにはあるわけで、どういふふうにかかわれば変わってくるんだろうみたいなのは、自分自身も疑問に思っていたというのもありま

表2 看護職が漢方医学を学ぶ意義

カテゴリー	サブカテゴリー
漢方医学の考え方や漢方薬の作用を理解することができる	漢方医学の考え方で身体の症状・状態を理解できる 漢方薬の作用を理解できる
看護師の対象をとらえる力が強化される	漢方医学の考え方を学ぶことによって患者を全体でみるという視点が強化される 漢方医学を学ぶことによって看護師の情報収集やアセスメントの視点が深まる
看護師のケア力を向上させる	漢方医学を学ぶことは看護師が独自に生活に合ったアドバイスやケアを提供することに役立つ 漢方医学を学ぶことで患者と看護師自身の両方のセルフケア力を高めることができる
看護師の役割を再認識する機会となる	漢方医学との共通点を知り看護師の役割を再認識した

した。(略)そういう身体づくり全体の知識のひとつとして(漢方医学を)使えるんじゃないかな」

「(患者さんが)熱が出たとき、なにが原因だろうねって言って、お通じちょっと出ていないからかも(しれない)みたいに考えることってありますよね」

また、漢方薬の作用について、原材料が植物であることから食べ物に含まれる成分の働きを知り、同時に西洋医学系の薬剤の作用と比較するなど薬理作用について学ぶことで《漢方薬の作用を理解できる》ことが語られた。

2) 【看護師の対象をとらえる力が強化される】

身体的な症状だけでなく体質や精神面をみる、普段の状態と比較するなど《漢方医学の考え方を学ぶことによって患者を全体でみるという視点が強化される》ことが語られた。また、幅広い情報収集が必要であることを再認識し、食事や睡眠、排泄などの生活背景まで目を向けることを意識するようになり、《漢方医学を学ぶことによって看護師の情報収集やアセスメントの視点が深まる》ことが語られた。

3) 【看護師のケア力を向上させる】

漢方医学の考え方や漢方薬の成分を知ることで、患者の体質や生活に即した食生活やその他の日常生活に関する保健指導やアドバイスにつながるなど《漢方医学を学ぶことは看護師が独自に生活に合ったアドバイスやケアを提供することに役立つ》可能性があることが語られた。

さらに、患者あるいは看護師自身が、自分の体調や体質に関心を持ち、食事やその他の生活を整えるなど《漢方医学を学ぶことで患者と看護師自身の両方のセルフケア力を高めることができる》という可能性が語られた。

「そういう(漢方医学の)情報とか知識を専門家がもっていることで、それを患者さんだったり、自分の家族にアドバイスすることもできるし、ひいては(看護師の)自分自身のセルフケア能力が高まるというのはあるんじゃないのかな」

4) 【看護師の役割を再認識する機会となる】

漢方医学の学習として、患者を全体でみることや自然治癒力に働きかけること、生活背景をみる必要性などを学ぶことを通して、それらが看護の考え方と同じである

ことに気づき、《漢方医学との共通点を知り看護師の役割を再認識した》という経験が語られていた。

「まさに(漢方医学の考え方は)看護の基本と同じで、その患者の療養環境をいかに整えるか、光とか風通しとか、そういうのを整えることで(患者の)自然治癒力を上げていくというのが看護の本来の基本じゃないですか。いっしょだなんて」

4. 看護師の漢方医学の学び方・学びたい内容・効果的な研修方法

ここでは、看護師の漢方医学の学び方・学びたい内容・効果的な研修方法の3つの視点について抽出された(表3)。まず、「看護師の漢方医学を学び方」については、以下の3つのカテゴリーであった。

1) 【学習したことを実践と結びつけて理解している】

患者の症状と処方されている漢方薬の作用などを結びつけて理解したり、漢方薬の飲み方など実践のなかで活用することで《患者の症状や服薬指導など自分の実践の場面と結びつけて理解しやすい》ことが語られた。また、自分が学習したことを同僚に伝達したり、薬剤師など多職種に相談してみるなど《学習した知識をもとに周囲に伝達したり多職種に提案・質問している》ことが語られた。

2) 【自分でリソースを探して学習をする】

すでに学習を始めている看護師は、《職場で処方されていたため漢方薬について学び始めた》というように必要性を感じて自ら学び始め、《漢方医学を学んでいる同僚などから教えてもらう》《漢方医学に関心を持ち本を読んだり研修会に参加するなどの学習を始める》など、リソースを探して学習していることが語られた。

3) 【漢方薬の効果を自分や周囲の人の体験から学んでいる】

看護師自身が《漢方薬の効果を自分で体感して学んでいる》《自分で漢方薬の飲み方を工夫したり体調による味の感じ方などを試している》というように、自分の体験として漢方薬の効果を語っていた。また《家族や周囲の人にも漢方薬を勧め、その効果を聞いている》というよ

表3 看護師の漢方医学の学び方・学びたい内容・効果的な研修方法

カテゴリー	サブカテゴリー
学習したことを実践と結びつけて理解している	患者の症状や服薬指導など自分の実践の場面と結びつけて理解しやすい学習した知識をもとに周囲に伝達したり多職種に提案・質問している
自分でリソースを探して学習をする	職場で処方されていたため漢方薬について学び始めた 漢方医学を学んでいる同僚などから教えてもらう 漢方医学に関心をもち本を読んだり研修会に参加するなどの学習を始める
漢方薬の効果を自分や周囲の人の体験から学んでいる	漢方薬の効果を自分で体感して学んでいる 自分で漢方薬の飲み方を工夫したり体調による味の感じ方などを試している 家族や周囲の人にも漢方薬を勧め、その効果を聞いている
漢方医学の基礎を学びたい	漢方医学の考え方や補完代替療法のなかの位置づけ 漢方医学の診断の立て方や体質の見方
漢方薬の作用・効用を学びたい	漢方薬の作用や効果 漢方の生薬と食品に含まれる成分の共通点
日常に有用な漢方薬の種類を学びたい	よく使われる漢方薬 看護師自身も使える漢方薬
漢方医学の診察・診断方法を学びたい	漢方医学の診察方法の種類や用い方 漢方医学の実際の診察技術 看護師ができるアセスメント方法
参加型の学習方法がよい	事例を用いた学習 診断・アセスメントの方法の演習 漢方薬の試飲 意見交換やグループワーク
漢方医学に関する知識レベルに合わせた研修内容がよい	入門編と応用編を分けるとよい 応用編があるとよい

うに、仕事以外の体験からも学んでいることが語られた。

また、「学びたい内容」について、以下の4つのカテゴリーが抽出された。

4) 【漢方医学の基礎を学びたい】

漢方医学の基本的な考え方、どのように発展してきたのか、補完代替療法のなかでの漢方医学の位置づけなどの《漢方医学の考え方や補完代替療法のなかの位置づけ》や、証や気血水とはなにか、どのように判断するのかといった《漢方医学の診断の立て方や体質の見方》に関する学習への期待が語られた。

5) 【漢方薬の作用・効用を学びたい】

漢方薬について、病態生理との関連を知りたい、体調による味の感じ方の違いを知りたいなど《漢方薬の作用や効果》への関心や、食品と漢方薬に含まれる成分の関連など《漢方の生薬と食品に含まれる成分の共通点》への関心があることが示された。

6) 【日常に有用な漢方薬の種類を学びたい】

症状別、疾患別、診療科別、体調別、年代別など《よく使われる漢方薬》や、看護師自身が体調管理をできるように《看護師自身も使える漢方薬》について知りたいと考えていた。

7) 【漢方医学の診察・診断方法を学びたい】

どのような診察方法があり、なにを診るのかという《漢方医学の診察方法の種類や用い方》、実際のアセスメ

ント方法の実技を学びたいという《漢方医学の実際の診察技術》、また、漢方薬の効用や診断方法とも関連して、看護師が観察したり情報収集したりすべき視点など《看護師ができるアセスメント方法》を知りたいという希望が語られた。

さらに、「効果的な研修方法」について、以下の2つのカテゴリーが抽出された。

8) 【参加型の学習方法がよい】

効果的な研修方法について、講義形式の他に、事例の解説や自分で事例についてアセスメントしてその後検討するという《事例を用いた学習》《診断・アセスメントの方法の演習》《漢方薬の試飲》《意見交換やグループワーク》といった方法が挙げられた。

9) 【漢方医学に関する知識レベルに合わせた研修内容がよい】

《入門編と応用編を分けるとよい》など受講者の学習状況に応じて研修内容のレベルを分けることで、さらに関心が高まるのではないかとということが語られた。

IV. 考 察

今回のデータを分析した結果、看護師は、漢方医学の考え方や漢方薬の処方の意図、飲み方の工夫を知らないため、漢方薬には効果がない、飲みにくい、さらに漢方

医学は怪しいものであると思っている現状が抽出された。本谷ら (2013) は、補完代替療法について、看護師の知識や情報の不足により、患者・家族からの質問や相談を避けてしまったり話題を逸らしてしまう可能性がある」と述べているが、本研究においても、漢方薬の知識がないために患者への説明ができなかったり、わからなくてもそのままにしている状況があることが語られていた。

多くの医療現場で漢方薬が処方されている現代において、患者に漢方薬を渡し、また漢方薬を飲んでいて患者に接する立場にある看護師にとって、漢方薬の効果の出力、作用と副作用を判断する視点は看護の職務を果たすうえで必須であると考えているが、今回の結果からは、看護師は十分に実践していないという実態がみえた。

また、自然治癒力に働きかける、患者を全体でみる、生活を整えるなどの漢方医学の考え方は、看護がもつ見方・役割と共通している。医療の効率化の流れのなか、日々の看護業務で意識することが少なくなっているこれらの看護の視点を、漢方医学を学ぶことで再認識する機会にもなっていた。

また、佐藤 (2011) は、近代医学では病名がつかないと原因治療を行えないが、漢方医学の概念を用いると、患者の訴える症状や身体所見を了解し、受容できる場合が多いと述べている。本研究でも、漢方医学の考え方で患者の身体の症状・状態を理解できることが語られており、漢方医学を看護ケアに活用できる可能性が示されていた。さらに、看護師が自身の体質を理解することや、漢方薬と食品に含まれる成分の相違を知ることで、日常生活で体調に合った食物を摂取するなどのセルフケアを実行したり、その経験を生かして患者にアドバイスしたりすることが可能となっていた。

これらのことから、実践経験のある看護師が漢方医学の新たな視点を得ることで、患者がもつ力や生活背景などに関する観察力・情報収集力がより高まり、看護師の実践力を高めることに役立つと考えた。看護師を対象とした生涯教育の内容としては、漢方医学の考え方などの基本的な内容、漢方薬の効用、漢方医学の診察技術の実技を学ぶプログラムが有用であると語りのなかから得ることができた。同時に、漢方医学に関心のない看護師が興味をもつような働きかけや、学習経験に応じた研修会など継続的に学習が深まるような企画が求められていた。

本研究は、特定の研修会に参加した漢方医学に関心のある看護師へのインタビュー調査であるため、看護職全般に適用することはできないが、看護現場の状況を理解する資料として役立つと考える。

V. おわりに

看護師が漢方医学を学ぶことにより、漢方医学の考え方を理解することができ、看護との共通点に気がつく過程で看護師の役割を再認識し、患者の背景や生活をみる

視点を強化できるなど、漢方医学から得た知識を現場で活用できる可能性があることが明らかになった。また、講義による知識習得のみではなく、実践的な学びが可能となるような教育プログラムの開発の必要性が示唆された。

謝辞

本研究にご協力いただいた看護職のみなさま、ご助言いただきました今津嘉宏先生に心より感謝いたします。本研究は、平成26年度株式会社ツムラ奨学寄附金（「看護教育への漢方医学の導入に関する研究」1,000,000円）により、研修会の開催、参加者のリクルート、データ収集・解析を行った。本論文の一部は、第20回聖路加看護学会学術大会にて発表した。

利益相反

本研究において申告すべき利益相反はない。

引用文献

- Hottenbacher L, Weißhuhn TE, Watanabe K, et al. (2013) : Opinions on Kampo and reasons for using it ; Results from a cross-sectional survey in three Japanese clinics. *BMC Complementary and Alternative Medicine*, 13 (1) : 108-119.
- 小池明子, 矢野正子 (1992) : 新版看護学全書第13巻基礎看護学1 (第1版). 17-20, メヂカルフレンド社, 東京.
- 小曾戸洋 (2006) : 中日伝統医学の歴史と平野重誠. *病家須知研究資料篇*, 看護史研究会 (編), 4-10, 農山漁村文化協会, 東京.
- 本谷久美子, 藤村朗子 (2013) : がん患者の補完代替療法に関する看護師の経験とその困難 ; 大学病院看護師を対象として. *日本がん看護学会誌*, 27 (1) : 31-42.
- 中野榮子, 安酸史子, 佐藤香代, 他 (2011) : 東洋医療に関する日本と韓国の看護学生の意識調査. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 8 (1) : 27-35.
- 中野榮子, 安酸史子, 山住康恵, 他 (2013) : 看護基礎教育における漢方医療教育の実態. *福岡県立大学看護学研究紀要*, 10 (2) : 65-71.
- 日本看護協会における看護職に関する呼称等の定義プロジェクト (2007) : 看護にかかわる主要な用語の解説 ; 概念的定義・歴史の変遷・社会的文脈. 10-13, 日本看護協会, 東京.
- 日本漢方生薬製剤協会 (2011) : 漢方薬処方実態調査 (定量) *Summary Report*. <http://www.nikkankyo.org/aboutus/investigation/pdf/jittaichousa2011.pdf> (2015/5/10).
- 佐藤 弘 (2011) : 漢方医学のスタートライン. *からだの科学増刊 ; これからの漢方医学*, 24-27.
- 高橋研一, 鈴木けい子, 王 財源, 他 (2007) : 医療系の学校におけるCAMに関連するカリキュラム調査. *慢性疼痛*, 26 (1) : 101-110.
- 寺澤捷年 (2009) : 看護学に生かす漢方の知恵. *富山大学看護学会誌*, 8 (2) : 1-12.
- 山田陽城 (2008) : Q & A で学ぶナースのための漢方入門. *Nursing Today*, 23 (13) : 57-62.

A Life-long Learning Program for Kampo Medicine for Nurses

Shiho Takemori¹⁾, Yuko Eguchi¹⁾, Chifumi Yoshida²⁾, Masako Yamada²⁾

1) Doctoral Course, St. Luke's International University, Graduate School

2) St. Luke's International University, College of Nursing

Purpose : Kampo medicine (Kampo) rooted in traditional Chinese medicine is an ancient medicine adapted to Japanese culture and recognized by the Japanese Ministry of Health. The purpose of this study was to identify the state-of-the-art of nursing practice related to Kampo, significance of learning Kampo, and ways of learning.

Method : Five participants were recruited from a total of 152 nurses attending at least two of the four themed-seminars about Kampo medicine. Two interviews were with two participants each and one interview was with one participant. The interviews were recorded and transcribed verbatim, and the data were analyzed and categorized qualitatively.

Result : There were two themes : 'nursing practice' which included the categories of nurses' misunderstanding and lack of knowledge of Kampo and 'significance of learning about Kampo for nurses', which included four categories : understanding the general ideas of Kampo and the effects of Kampo herbal medicines ; improving nurses' ability of understanding their clients ; increasing nurses' ability of taking care and recognizing nursing roles once again. When participants learned about Kampo they integrating their own practice with knowledge of Kampo and realizing the effects of Kampo herbal medicines based on their own experience. For effective Kampo education nurses should be taught the following content : the basis of Kampo, the uses of Kampo herbal medicines, and the art of Kampo including physical assessment. In addition, learning methods should include experiencing Kampo, for instance exercising or tasting.

Discussion : Learning Kampo could contribute to recognizing nursing roles once again and could be widely applied to nursing practice. It is possible that learning programs with actual experience will be developed and become accessible to nurses. Additional research will strengthen the applicability of the program.

Key words : Kampo medicine, nurses, nurses' lifelong education, qualitative study